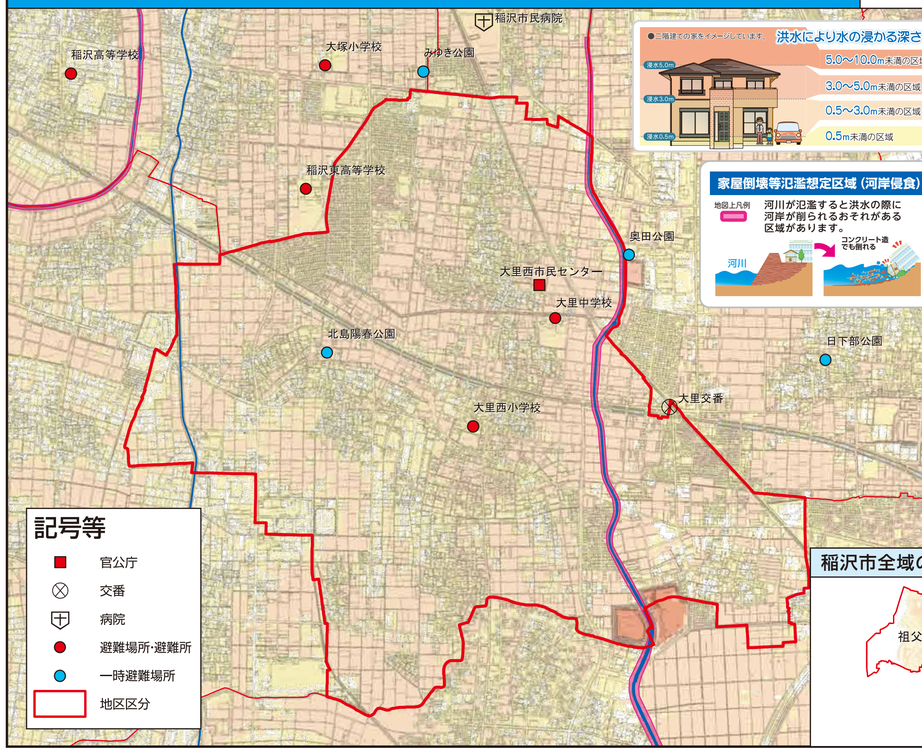
洪水ハザードマップ［大里西地区］ 日光川・庄内川・新川・郷瀬川が氾濫した場合の洪水浸水想定区域図

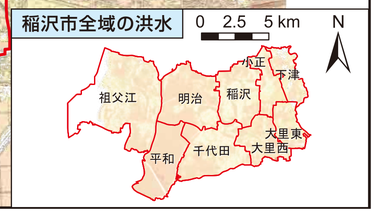


このマップは、各流域の想定最大規模降雨（1000年に1回程度発生する確率の大雨）に対するシミュレーションの結果をすべて重ね合わせて作成したものです。

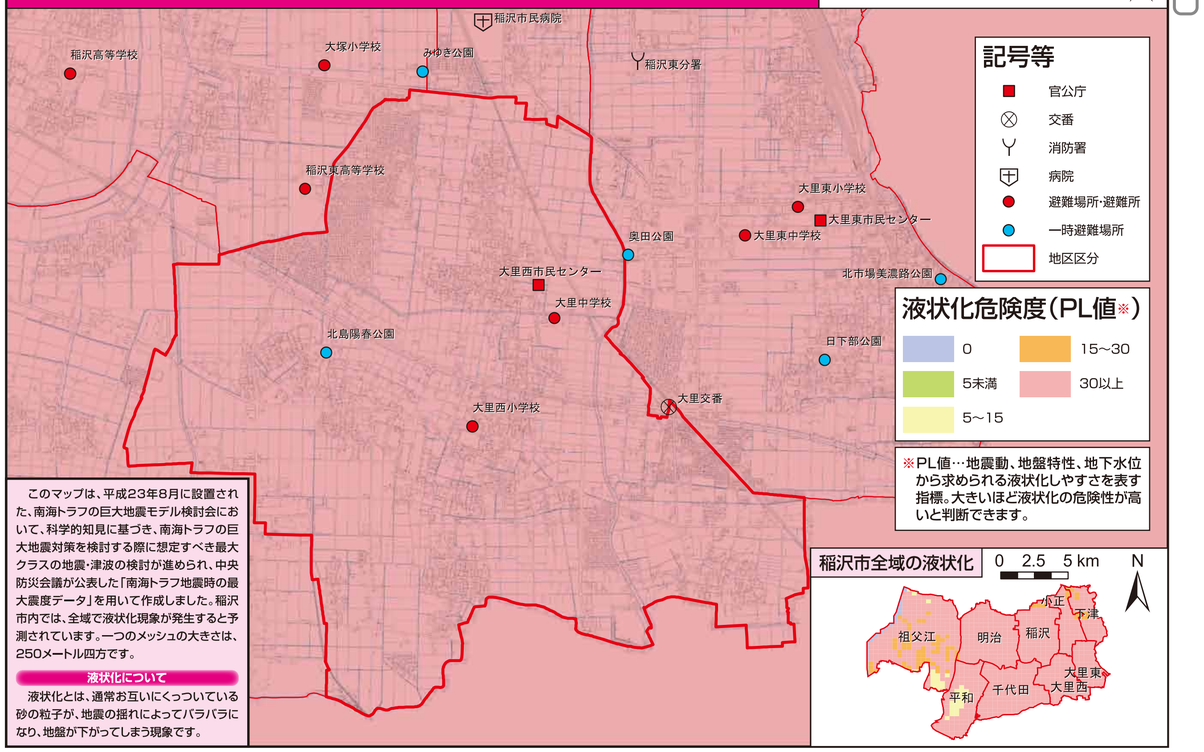
・日光川流域：令和元年9月に愛知県が公表した浸水予想図（24時間総雨量713mm）
・庄内川流域：令和2年3月に国が公表した洪水浸水想定区域図（24時間総雨量578mm）
・新川流域：令和2年5月に愛知県が公表した浸水予想図（24時間総雨量751mm）
・郷瀬川流域：令和2年4月に愛知県が公表した浸水予想図（24時間総雨量790mm）

マップに表示した浸水の広がる範囲や深さは、川の堤防を決壊させた地点での浸水範囲の計算結果を重ね合わせ、最大となる浸水の深さを選び、色分けして表示しています。

マップに示した浸水の広がる範囲や深さは、計算結果によるものであり、雨の降り方によっては、浸水の想定されていない地域においても浸水したり、想定される深さが実際の深さとは異なる場合があります。



液状化危険度予測マップ［大里西地区］

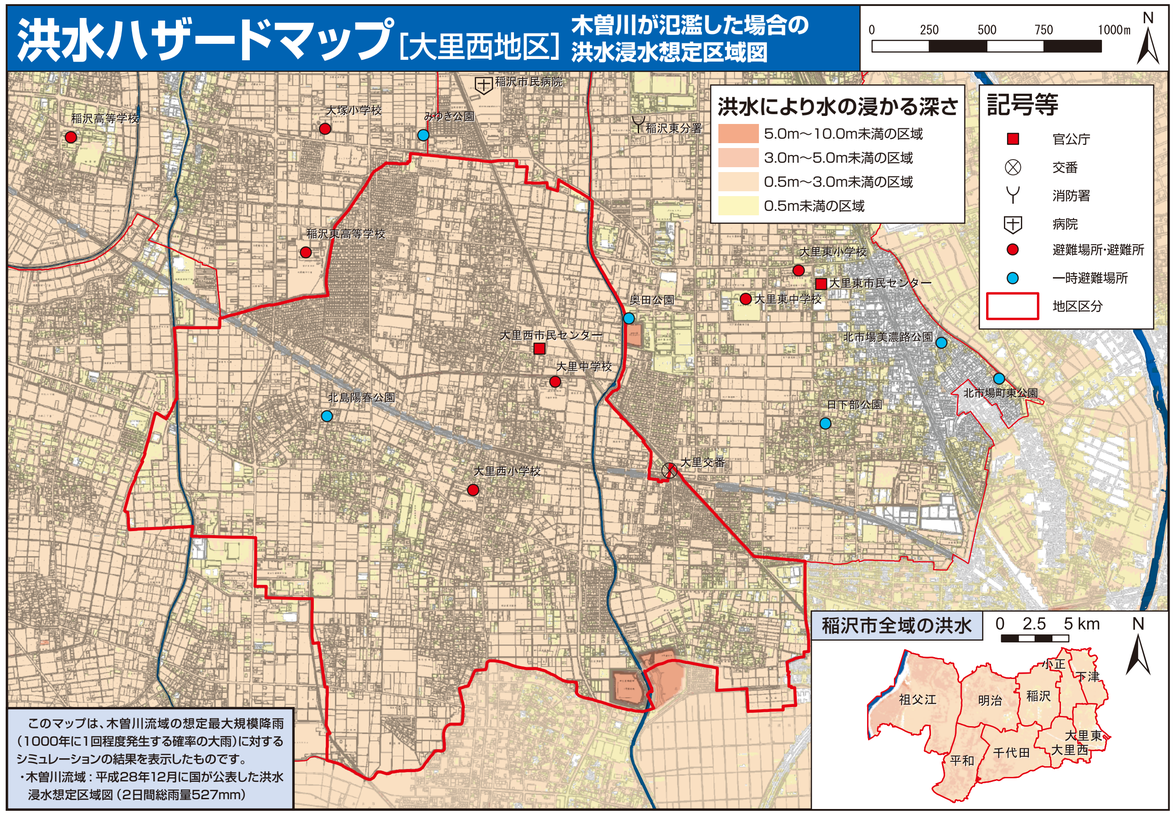


このマップは、平成23年8月に設置された、南海トラフの巨大地震モデル検討会において、科学的知見に基づき、南海トラフの巨大地震対策を検討する際に想定すべき最大クラスの地震・津波の検討が進められ、中央防災会議が公表した「南海トラフ地震時の最大震度データ」を用いて作成しました。稲沢市内では、全域で液状化現象が発生すると予測されています。一つのメッシュの大きさは、250メートル四方です。

液状化について

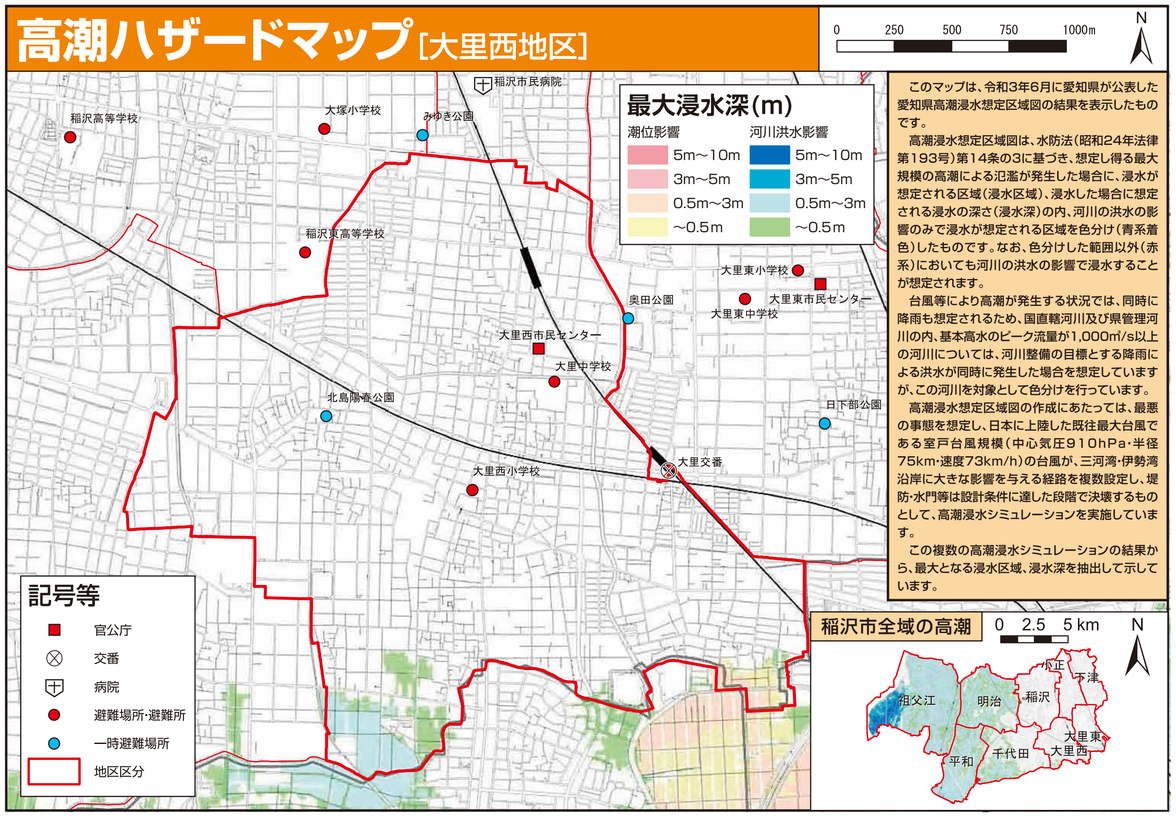
液状化とは、通常お互いにくっついている砂の粒子が、地震の揺れによってバラバラになり、地盤が下がってしまう現象です。

洪水ハザードマップ［大里西地区］ 木曽川が氾濫した場合の洪水浸水想定区域図



このマップは、木曽川流域の想定最大規模降雨（1000年に1回程度発生する確率の大雨）に対するシミュレーションの結果を表示したものです。
・木曽川流域：平成28年12月に国が公表した洪水浸水想定区域図（2日間総雨量527mm）

高潮ハザードマップ［大里西地区］



このマップは、令和3年6月に愛知県が公表した愛知県高潮浸水想定区域図の結果を表示したものです。

高潮浸水想定区域図は、水防法（昭和24年法律第193号）第14条の3に基づき、想定し得る最大規模の高潮による氾濫が発生した場合に、浸水が想定される区域（浸水区域）、浸水した場合に想定される浸水の深さ（浸水深）の内、河川の洪水の影響のみで浸水が想定される区域を色分け（青系着色）したものです。なお、色分けした範囲以外（赤系）においても河川の洪水の影響で浸水することが想定されます。

台風等により高潮が発生する状況では、同時に降雨も想定されるため、国直轄河川及び県管理河川の内、基本高水のピーク流量が1,000㎥/s以上の河川については、河川整備の目標とする降雨による洪水が同時に発生した場合を想定していますが、この河川を対象として色分けを行っています。

高潮浸水想定区域図の作成にあたっては、最悪の事態を想定し、日本に上陸した既往最大台風である室戸台風規模（中心気圧910hPa・半径75km・速度73km/h）の台風が、三河湾・伊勢湾沿岸に大きな影響を与える経路を複数設定し、堤防・水門等は設計条件に達した段階で決壊するものとして、高潮浸水シミュレーションを実施しています。

この複数の高潮浸水シミュレーションの結果から、最大となる浸水区域、浸水深を抽出して示しています。